

第5回会合でのヒアリングに対する追加質問と回答

追加質問	回答
1. 5Gインフラの整備について	
<p>【対JTOWER】</p> <p>① インフラシェアリングの技術上の課題を教えてください。特にミリ波のインフラシェアリングについて、解決しなければならない技術的課題は残っているか（栄藤構成員）</p>	<p>第5回ワーキンググループにてご紹介した28GHz帯共用無線機（RU）については、今後携帯電話事業者各社と相互接続試験を実施したい考えです。</p> <p>その際の技術的課題としては、各社ごとにそれぞれ接続にかかる詳細な設定値を合わせる必要があるなど、相互接続試験を通して、確認、解決すべき課題が残っている認識です。</p> <p>なお、本件については、無線機の共用を行う場合の周波数帯域を問わず共通の課題となります。</p>
<p>【対JTOWER】</p> <p>② ミリ波のインフラシェアリングについて、4社に対応すると、対応帯域がとても広くなり、コストが高くなると思うが、どのように捉えているか（中尾構成員）</p>	<p>共用無線機（RU）については、ミリ波等において対応する周波数帯域が広くなることに伴いコスト増の要因にはなるものの、今後デバイス（半導体）の技術進歩により共用化に資する機能の向上が見込まれるため、コスト効率化も図れるものと想定しています。</p> <p>なお、装置の共用化を行うことで実現できるメリットとしては、以下が挙げられますので、ミリ波のインフラシェアリングについても有効性があるものと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電源部やクロックなど共通化することによるコスト効率化 ・ 設置工事や運用面について、一元的に対応することによるコスト効率化 ・ 実装面では設置スペースの一元化 など

<p>【対JTOWER】</p> <p>③ 自らミリ波の免許を受け、ネットワークを構築することは考えられるか（森川主査）</p>	<p>インフラシェアリング事業者である当社としては、携帯電話事業者が共通で利用可能となる無線ネットワークを提供する観点で、利用シーンや需要見込みなどを踏まえて、検討を深めたい考えです。</p>
<p>2. ユースケースの創出について</p>	
<p>【対MVNO委員会】</p> <p>① MVNOによるミリ波の免許取得について言及があったが、そうすることによって、どのようなサービスを提供することが想定できるか（森川主査）</p>	<p>ミリ波についてはスポット的な活用が可能であることから、地方の多種多様なニーズや地域が抱える固有の課題等に合わせたサービス提供が期待できると想定しております。特に、フルMVNO（フルVMNO）や、ローカル5Gを提供しているMVNOのように、自らコアネットワークを運用している事業者は、独自に免許を取得したミリ波のスポットを、MNOのロー・ミッドバンドの公衆4G/5Gネットワークや、ローカル5Gと組み合わせて提供することが可能となり、様々な無線を必要に応じ組み合わせて提供する「ヘテロジニアスネットワーク」を用いたサービスを実現できるものと考えます。また、MNOだけでなくMVNOについてもミリ波の免許取得対象とすることは、ミリ波の利活用促進につながるとともに、MNOでは手が届きにくい地方や中小企業等、より地域に密着した多様なサービスの創出につながると想定しております。</p>
<p>【対MVNO委員会】</p> <p>② MVNOは、VMNOとして高付加価値・高価格なサービスに挑戦する際、MNOとどのように差別化していくことが考えられるか（砂田構成員）</p>	<p>当委員会が提唱する「VMNO構想」の2つのモデルに関し、MNOとの差別化について以下のように考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ライトVMNO」では、APIによる高度な5Gネットワーク利用が可能となることから、スタートアップやベンチャー等が、IoTなどの通信が絡むサービス領域において、自ら強みとするサービスと通信を容易に組み合わせてビジネス創出する環境が整うことで、通信事業者として通信には強みを持ちつつもそれ以外の領域では強みを持たないMNOに対し、サービス・ソリューション部分を中心に、差別化や付加価値を生み出すことが可能になると想定。

	<ul style="list-style-type: none">・ 「フルVMNO」については、カバレッジ構築のための投資を行うことが必要なMNOが、その投資を回収するために自らのネットワークを活用することを第一とするのに対し、カバレッジ構築に投資をしないフルVMNOは特定の無線網に固執することはなく、他のMNOのネットワークやローカル5G、Wi-FiやLPWAなど様々な無線網を、MVNO各社の戦略や利用者のニーズに応じて柔軟に組み合わせる「ヘテロジニアスネットワーク」戦略により、通信部分における差別化や付加価値を生み出すことが可能になると想定。
--	--